畦はそのまま

BASF
We create chemistry

user's voice
しまなみ・やまなみ版 2020

草だけ枯らす

バスタ液剤

私たち畦畔でのバスタ散布はじめました。

急斜面での草刈りを減らして バスタでカバーしていきたいです

広島県神石郡神石高原町　農事組合法人桑木

中村　裕澄　様（64歳）

プロフィール

- 2016年に専業農家に転向
- 主な栽培作物：水稲（13ha）、ブルーベリー（0.5ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年3～5回）

就農のきっかけ

もともとJAで働いていましたが、4年前の退職を機会に専業農家になりました。農業法人桑木は1993年に立ち上げられた法人で、私はJA職員だったこともあり、法人の立ち上げ当初から役員を務めていました。その前は営農組合という形で作業していましたが、会社組織にして、みんなでこれからも地域の農業を守っていこうということで、法人を立ち上げました。

営農での心がけ

昔からケイ酸を含んだ資材を使うことを心がけています。台風のときでもケイ酸を使った田んぼは、倒伏せずに済みました。おそらく、軸が太くなり、根張りも良くなって、養分をしっかり吸収するようになるのだと思います。結果、収量はもちろん、飼料組合さんへ渡す藁の量も増やせるようになりました。

バスタ液剤を利用した感想

以前、畦畔に別の除草剤を試したときは地面が崩れてしまいました。今回バスタを紹介されたときも、「大丈夫かな?」とも思いましたが、畦が崩れることもなく、今後も続けて使えると思います。この辺は山間部なので、急傾斜ののり面が多く、長い所だと100メートルを超えます。草刈りの途中で後ろを振り返ると、「これだけしか刈ってないの」という感じで、精神的にも参ります。今年、バスタを2回撒きましたが、その分、草刈りの回数を2回減らせました。草刈りの作業員や作業時間の確保が難しくなってきているので、どうにかバスタでカバーできればと思っています。

今後の畦畔管理について

今年は何も不都合はなかったので、使う面積を少しずつ広げていければと思います。草が枯れたままの景観を気にする人もいるかと思いますが、雑草の管理ができなければ草だらけになってしまうので、時間はかかるかもしれませんが、それは理解いただけると思います。

取材メモ

中国山地の高原に位置する神石高原町は、昼夜の温度差が大きく、豊富な水に恵まれたお米作りに適した環境です。「ありがたいことに、桑木のコシヒカリも美味しいという評判をたくさんいただき、学校給食にも使っていただいています」と、中村さんは目を細めます。最近は水稲での六次産業を検討中。「お米をパスタやピザに加工して販売できないか考えています」と計画を教えてくれました。

バスタは畦を崩さず草を枯らせる。周りの評価もいいですよ

広島県世羅郡世羅町　農事組合法人うづと
兼国　幸秀　様（72歳）

プロフィール
- 2010年、定年退職を機会に専業農家に転向
- 主な栽培作物：水稲（23ha）、アスパラガス（1.1ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ、あきさかり

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年5～6回）

就農のきっかけ
会社員をしていましたが、定年退職をきっかけに農事組合法人うづとの仕事に携わるようになりました。法人は2004年に立ち上げられ、現在は57名で構成されています。

営農での心がけ
お米はたくさんの方に買っていただいているので、「おいしい米を作る」ということを大事にしています。幸いなことにこの地域は標高が高く、昼夜の寒暖差があり、おいしいお米作りに恵まれた環境です。また、私たちのお米はJGAPを取得しており、「安全安心」ということを一番にうたっています。例えば、農薬散布の時には近隣の圃場に事前に連絡するなどして、飛散防止の管理に努めています。

バスタ液剤を利用した感想
水稲で一番困っているのは、やっぱり草刈りです。どこの法人でも「草刈りをする人がいない」という話が出ますが、畦畔に除草剤を撒くと畦が崩れるので、この地区でも草刈り機で草を刈るのが一般的でした。でも、今年初めてバスタを試しましたが、畦が崩れることもなく、草刈りの作業も省くことができましたね。周りの評価もいいですよ。

今後の畦畔管理について
今回の結果を踏まえて、バスタを使用する場所を増やしていく予定です。私たち法人の組合員のところにも今年の結果をお伝えして、作業を省力化できればと思います。

取材メモ
うづとは国内でも数少ない、アスパラガスでJGAPを取得している生産団体です。「安全性をPRし、私たちのアスパラガスを広めていきたい」と話す兼国代表。「東京五輪では選手村の食事に採用されることを目指しています。目標はアスパラガスの日本代表です」と意気込みます。

面積が大きい畦畔ではバスタは特に必要になると思います

広島県庄原市高町　農事組合法人高下
野崎　幸雄　様（70歳）

プロフィール
- 20歳の頃から30年ほど酪農に携わり、18年前に水稲農家に転向
- 主な栽培作物：水稲（32.7ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年5回）

就農のきっかけ
学校を卒業後、52歳まで酪農に携わっていました。水稲を栽培するようになったのはそれ以降です。農事組合法人高下は2003年に設立された法人で、現在の組合員は60人ほどです。私は設立から役員として参加し、今は法人の代表に携わっています。

営農での心がけ
水稲の一部は特別栽培米で、酪農で使っていた堆肥舎を活用して完熟堆肥を作り、肥料として使っています。農作業にも色々なものがありますが、大事な作業は適期を逃さないということを大切にしています。私たちは修学旅行生の農業体験を受け入れていますが、農業は面白いということを皆さんにアピールしていきたいです。

バスタ液剤を利用した感想
草刈りに比べて枯れた草が茶色になるのが少し目立ちますけど、草刈りの回数も減らせて、労力的にはすごく楽ですね。私たちは草刈りのグループを作って作業していますが、夏は暑くて大変です。面積の多い畦畔は労働量も多くなるので、バスタは特に必要になると思います。畦畔管理用にセンチピートグラスを植え始めていますが、その下処理剤にも使えればいいですね。

今後の畦畔管理について
今は4月以降の毎月、月末に草刈りの作業をしていますが、高齢で草刈りの作業がきつくなってしまい、農業そのものをやめてしまう人もいます。作業の効率化は早急な課題です。私たちも年間で5回の草刈りを組合員さんにもお願いしていますが、その数回分をバスタに置き換えていければと思っています。

取材メモ
農事組合法人高下さんで栽培されているオリジナルブランドの「しづか米」。お米の食味日本一を決める米-1グランプリでは準グランプリの受賞実績があり、おいしさは折り紙付きです。

夏の暑い時期の草刈りを省けて良かったです

島根県仁多郡奥出雲町　農事組合法人馬木の里たんぼ

内田　博之　様（82歳）

プロフィール

- 高校卒業後に家業の農業を継ぐため就農
- 主な栽培作物：水稲（14ha）、そば（0.6ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年4回）

就農のきっかけ

私自身は高校を卒業後、実家の農業を継ぐために就農しました。農事組合法人馬木の里たんぼは18年前に設立され、現在13名の組合員で構成されています。

営農での心がけ

私たちの水稲では農薬や化学肥料を抑えるエコ米栽培を取り入れています。一般の米作りと比べて管理は大変ですが、安心･安全でおいしいお米を消費者に提供できるよう、今後も続けていきたいです。このあたりのお米は「仁多米」という産地ブランドで、米･食味分析鑑定コンクールでは数回金賞をもらいました。おいしいお米作に恵まれたこの地域の環境を、これからも守っていきたいと思います。

バスタ液剤を利用した感想

畦畔の雑草管理は草刈りです。雑草の草丈が大きくなって刈ると大変なので、労力的には回数を増やして何回も刈っています。バスタは以前から大豆の栽培で使っていましたが、畦畔に試したのは今年が初めてです。それまでは、畦畔に除草剤を使うと地面が柔くなったり崩れたりすると言われていたので避けていましたが、実際に使ってみたところ草刈りの回数を減らせて楽でしたね。特に夏の暑い時期の草刈りを省けたのは良かったです。畦畔から侵入するイボクサにもよく効いて助かりました。

今後の畦畔管理について

年に2回くらい、畦畔管理とイボクサ対策に使っていきたいです。

取材メモ

おいしいお米について「食味値が高く、食べて口当たりのいいもの。冷めても粘りが少なくならないもの」と教えてくれた内田さん。「仁多米はその要素が全部揃っています」と胸を張ります。日本穀物検定協会の食味ランキングでは過去に2度、最高位「特A」を受賞。西日本を代表するコシヒカリの産地ブランドです。

バスタは効果が早く現れるので「効いた」という実感が得られます

広島県三原市大和町　農事組合法人ふかみの郷

上岡　勝　様（69歳）

プロフィール

- 実家の農業を兼業農家として携わり、2008年に農事組合法人ふみかの郷を設立
- 主な栽培作物：水稲（16ha）、にんにく（0.2ha）、白ネギ（0.2ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ、あきさかり、しきゆたか

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年3回）

就農のきっかけ

高校を卒業してから一時期外に出ていましたが、少ししてから地元に戻り、実家の農業を兼業で手伝っていました。今は専業で、2008年に設立された農事組合法人ふみかの郷の代表を務めています。法人に入った当初はいきなり水稲の責任者を任せられて戸惑いましたが、それをきっかけに品種等や栽培の勉強に励んできました。

営農での心がけ

法人の組合員の皆さんにはしっかりとした水管理をお願いしています。水管理は収量や雑草の発生具合に影響する大切な要素なので、徹底したいです。また、私たちは収量を上げることを目指してハイブリッド米の栽培に挑戦しています。今年は反700kg収量を得ることができました。

バスタ液剤を利用した感想

数年前に、JAから「バスタを畦畔に撒けば、年3回の草刈りを1回に抑えられる」という話を聞き、その頃から興味を持っていました。このあたりも高齢化で個人での草刈りが難しくなり、これからは法人で畦畔管理を請け負う場面も増えてくると思います。そのような中、「バスタは根まで枯らさないから、畦畔にはもってこいじゃないか」という意見も出て、今年初めて試してみました。結果、草刈りの回数も減らせましたし、草刈りの作業自体も枯れた草を刈るので楽になりました。また、バスタは効果が早く現れますね。散布した翌日には葉の色が変わっていました。効いたという実感が得られるのもいいです。

今後の畦畔管理について

法人で畦畔管理を請け負う場所にはバスタを使っていこうと思っています。草刈りに比べてやっぱり省力化になりますしね。

取材メモ

ふかみの郷さんでは水稲の他ににんにくの栽培に力を入れています。以前はかぼちゃを栽培していましたが、イノシシに荒らされたため、イノシシが好まないとされるにんにくの栽培を始めました。収穫したにんにくは黒にんにくに加工し、道の駅などで販売しています。柔らかくて甘酸っぱさがあり、健康食品としても好評を得ている自慢の一品です。

バスタを使った方からも「随分楽になった」と好評でした

広島県安芸高田市美土里町　有限会社桑田の庄

清水　一彦　様（60歳）

プロフィール

- 2006年に勤めていた市役所を早期退職して専業農家に転向
- 主な栽培作物：水稲（39.2ha）、大豆（5ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ、ヒメノモチ

昨年までの畦畔の雑草管理方法：手刈り（年3回）

就農のきっかけ

桑田の庄は2002年に地元の有志で立ち上げた有限会社です。私も立ち上げからのメンバーでしたが、その時はまだ市の職員でした。2006年に早期退職して専業農家になり、2008年からは法人の代表をしています。

営農での心がけ

私たちのお米は地域にある桑田地区の名前を冠にして、「桑田米」というブランドで販売しています。お客様には、おいしくて安全なお米という点を評価してもらい買っていただいているので、その信頼関係を大事にしながら、お米作りを続けていこうと思っています。

バスタ液剤を利用した感想

これまでも畦畔に除草剤を使った方はいましたが、地面が崩れて表面に石がむき出しになり、草刈りに入ったところ刃が石に当たって欠けてしまったということもありました。「畦畔に除草剤は難しいかな」と思っていましたが、バスタは畦が崩れないということで試してみましたが、実際に使った人からは、「草刈りの作業が減らせて、随分楽になった」というお話で、良かったと思います。

今後の畦畔管理について

イボクサのように畦畔から侵入して稲に絡んでしまう雑草にも困っているので、今後は水際も含めて使っていきたいなと思っています。

取材メモ

「中山間地域ということもあり、数多くの圃場を管理しなければならない」と課題を話す清水さん。効率的な圃場管理のため、スマート農業に注目されています。「桑田の庄では、今年からコンバインと連動する営農支援システムを取り入れました。食味センサーで圃場ごとのタンパク値を測定できるので、来年の施肥設計に役立ちます」と、手応えを感じています。

たくさんスギナが生える場所にもバスタはよく効きました

愛媛県西条市氷見

越智　優行　様（37歳）

プロフィール

- 2005年頃に実家の農業を継ぐ形で会社員から専業農家に転向
- 主な栽培作物：水稲（7ha）、ハダカムギ（8ha）、サトイモ（0.8ha）
- 水稲の栽培品種：コシヒカリ、にこまる、ヒノヒカリ、きぬむすめ

昨年までの畦畔の雑草管理方法：除草剤と草刈り

就農のきっかけ

もともと会社勤めをしながら祖父の農業を手伝っていましたが、祖父も高齢だったこともあり、15年ほど前に仕事を辞めて継ぐことにしました。

営農での心がけ

農業は毎年が勉強です。天候にも左右されるし、毎年環境条件も違う。理想の出来を100点とすると、今は80点台を目指してやっていますが、経験値を積んで、色んな状況に応じられるような引き出しを増やして、将来は満点の結果が出せるようになればと思っています。

バスタ液剤を利用した感想

以前から、このあたりでは水田畦畔の雑草管理に除草剤を使っていました。伸びた雑草を除草剤で枯らしてから草刈りに入り、その後もう一度除草剤をかけて雑草の生育を抑えています。夏だとすぐに草が生えてくるので、除草剤で抑えられれば、後々草刈りも省けて楽になりますからね。バスタは昔から野菜畑で使っていましたが、今年はスギナがたくさん、それこそ森のように生えるところに使いました。結果は良かったですね。スギナにとても効果があるというのがよくわかりました。

今後の畦畔管理について

来年もスギナの多いところにはバスタを使っていこうと思います。

取材メモ

今回の取材で最年少の越智さん。スマート農業等の新しい技術や機器の導入にも意欲的で、最近ではGPSを搭載した田植機を購入。「以前は気を張りながら操作していましたが、今は自動で真っすぐに田植えができるのでとても楽になりました」と、ご満足の様子。「時間があれば、スマートフォンで新しい機械をチェックしています」と、情報収集も積極的に行っています。

バスタ液剤を
ご使用になった皆様のお声

- 畦を崩さずに草だけを枯らすことができました
- 草刈りの回数を減らせました
- 草を枯らすことで、その後の草刈りも楽に行えました

■広島県神石郡神石高原町　農事組合法人桑木　中村　裕澄　様　圃場

今年、バスタを2回撒きましたが、その分、草刈りの回数を2回減らせました。
畦が崩れることもなく、安心しました。

■広島県世羅郡世羅町 農事組合法人うづと　兼国　幸秀　様　圃場

バスタは畦が崩れることもなく、草刈りの作業も省くことができましたね。
周りの評価もいいですよ。

■広島県庄原市高町　農事組合法人高下　野崎　幸雄　様

バスタは草刈りの回数も減らせて、労力的にはすごく楽ですね。

■島根県仁多郡奥出雲町　農事組合法人馬木の里たんぼ　内田　博之　様　圃場

夏の暑い時期の草刈りを省けたのは良かったです。
畦畔から侵入するイボクサにもよく効いて助かりました。

■広島県三原市大和町　農事組合法人 ふかみの郷　上岡　勝　様　圃場

草刈りの回数も減らせましたし、草刈りの作業自体も枯れた草を刈るので楽になりました。
また、効果が現れるのも早いですね。

■広島県安芸高田市美土里町　有限会社桑田の庄　清水　一彦　様　圃場

バスタを実際に使った人からは、
「草刈りの作業が減らせて、随分楽になった」というお話で、良かったと思います。

■愛媛県西条市氷見　越智　優行　様　圃場

スギナがたくさん、それこそ森のように生えるところに使いました。結果は良かったですね。
スギナにとても効果があるというのがよくわかりました。

水田畦畔の雑草防除に

バスタ®

®=BASF社の登録商標

畦畔を崩さず安心

●バスタは薬剤がかかった地上部のみを枯らします。
●雑草の根は地下に残るため草刈りと同程度の強度を保ちます。

難防除雑草に有効

●畦畔から水田に侵入する雑草の防除に有効です。

アシカキ

キシュウスズメノヒエ

イボクサ

畦畔管理の費用対効果試算（例：広島県）

出典：平成22年畦畔管理省力化マニュアル
（広島県北部、西部、東部農業技術指導所）

●畦畔管理手法と労働時間の比較

●畦畔管理手法と費用の比較

●各管理手法の1回の作業面積：年間の水田10aあたり畦畔面積100㎡と仮定して算出
●1回あたりの作業時間　刈払機：1.01時間　バスタ散布：1回15分
●人件費：時間あたり1,000円で試算
●燃料代：混合油1時間当たり190円試算
●薬剤費：1L@3,900円、10L/a散布　薬量100ml/aで試算

畦畔管理にバスタ液剤を取り入れることで、省力化とコスト削減につながります。

バスタは水田畦畔を崩しません！

草刈りと同程度の畦畔強度を保ちます。

「畦畔での上手な散布方法」
YouTube
で公開中！

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2020年12月の知見に基づいて作成されています。

BASFジャパン株式会社
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
0120-014-660　https://crop-protection.basf.co.jp/

F-3285 1
202012